

親が**子**どもに してあげられること

石橋 尚子(椋山女学園大学)



はじめに

- 家事に育児にお仕事、毎日がんばっているお母さん、お父さん、本当にお疲れ様です。
- 毎日子どもと接していると、新しい発見や驚き、楽しいことや嬉しいことがたくさんありますね。
- だけど、思うようにいかなかったり、自分でも「なんでこんなことをやってしまったんだろう」と後悔することもしばしば…。

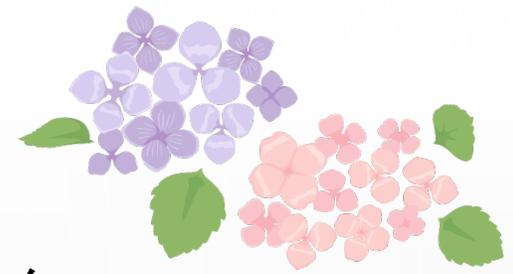
「子育ての正解って何なんだろう？」

と、悩んだりもします。

- 「わが子にはちゃんとした子に育ててほしい」と願うがゆえに、失敗するとわかっていることは、やらせないで、「こうした方がいいよ」と口出ししたり…
- 子どもがやりたいと言っている事をやらせるよりも、自分が子どもにやらせるべきと思う事をやらせた方がいいと思ってしまうたり…。
- 「あれ？ この子に幸せになってほしいから色々言ってたけど、なんだかかわいそう…」
- 親の**役割**について考えます。



子育ての正解って？



- 子育てが正解かどうかは、親が決めることでも、他人が決めることでもありません。
「子ども自身が幸せになること」です。
- つまり、正しい子育てとは、「自分は幸せだと感じられる子どもに育てること」です。
- そのために親ができることは、

自分で考えて行動する力を身につけ、自分らしい人生をおくれる子

に育てることだと思います。

- 不必要に厳しい躰をしてしまったり、無理に習い事をさせたり、子どものためにとあれこれ「転ばぬ先の杖」を用意したり・・・そんなことはしなくてよいのです。
- 普通に…当たり前前に…日々向き合っている「自分の子育て」に、まず自信を持ちましょう。
- その上で、時々自分が思う子育ての「当たり前」を見直してみましょう。



子育ての「当たり前」を見直してみよう

例えば、3歳までは母親が育てないと子どもに悪影響が出ると思っていませんか？

- 世界保健機構(WHO)の要請を受け、欧米諸国の戦争孤児収容施設の調査に携わったボウルビィは、**ホスピタリズム**(HOSPITALISM:施設病)の原因として、**母性的養育の剥奪**(マターナル・デプリベーション MATERNAL DEPRIVATION)という概念を提唱し、著書『乳幼児の精神衛生(1951)』によって世界に発信しました。
- **母性的養育の剥奪**とは、乳幼児期に、母親的な人物(母親、母親代わりの人)から世話や養育を十分に施されないと、身体的・知的・情緒的・社会的発達において悪影響を受け(例えば、歩行不能、知能指数の低下など)、その悪影響はその後の人生において長期的に続くものであるとする考えです。
- 「母親のような愛情で子どもを育てましょう」と、ボウルビィは世界に訴えました。
- これにより、世界各国の児童施設の環境改善が行われ、日本においても成果があげられましたが、高度成長期の日本では「**三歳児神話**」を産む原因の一つともなりました。



子育ての「**当たり前**」を見直してみよう

例えば、**早期教育**。小さいうちから(今のうちから)〇〇しないと△△になれない、
と思っていませんか？

- 早期教育は、未就学児に対して知識や技術の習得を目的に行う教育です。英語や読み書き、ピアノや運動などが例として挙げられます。
- **0～5歳は脳の神経系が急激に発達**しますので、この時期から経験させることでその子の能力や関心を高めることができると広告・宣伝され、親心をざわつかせます。しかし、その効果については、まだ明確な結論は出ていません。
- 早期教育は、「好奇心や得意分野を引き出せる」といったメリットがある一方で、「自主性や創造性、コミュニケーション能力の発達が遅れる可能性がある」などのデメリットも指摘されています。
- この時期に大切なことは、**自分で見つけた遊び(楽しいこと)を、あきるまでたっぷりと楽しむこと**です。学習塾や習い事だらけで、遊んでいれば自然に身につくことが、遊び経験が不十分なために身につかないままに大きくなってしまふことが心配です。。

親が子どもにしてあげられること

※親が子どもにしてあげられることは、**子どもの話をしっかり聴き**、「あなたは素敵で大切な存在だ」と、「産まれてくれてありがとう」と、心から伝えることです。そして、**親自身が人生を楽しみイキイキしている姿を見せる**ことです。

以下の3点から、少し具体的にお話ししましょう。

1. 日常生活を大切にする
2. 子どもの発達状況を理解する
3. 子どもへのかかわり方：**3つ**のヒケツ

- … ① 先回りしない
- ② 子どもの話をよく聴く
- ③ 親自身が幸せである



1. 日常生活を大切にすること



《子どもの心が健康に育つための家庭の4条件》

- ① **安全**で**安心**できる環境 … 愛着(アタッチメント)の形成
- ② **応答的**な環境 …… 子どもの行動にタイミングのよい応答がある
- ③ **自己肯定感**を持てること … 自分は価値のある人間だと思える
- ④ **ノーマル**な生活体験があること …… 当たり前の生活に関わる環境がある

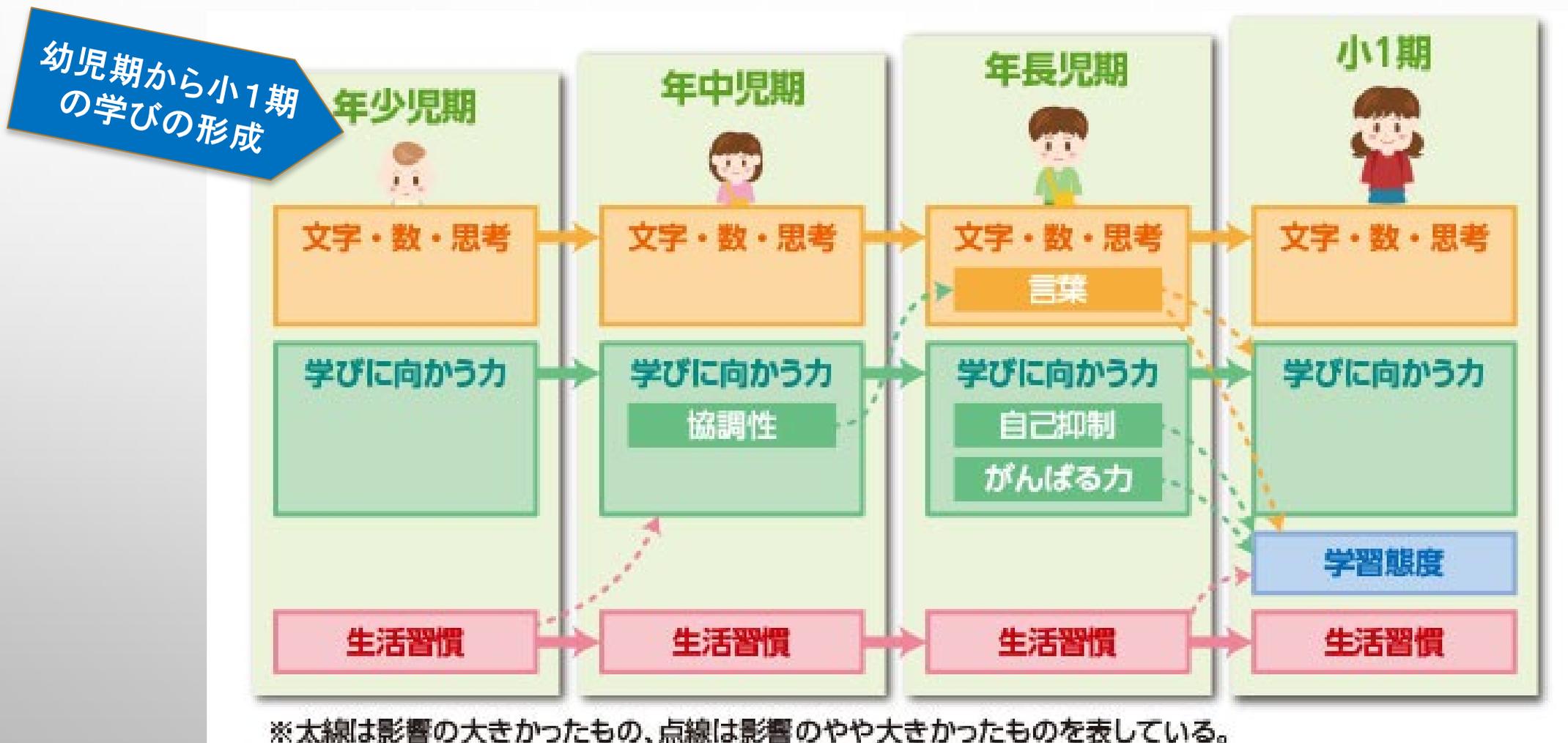
※子どもと家族、特に親(または主たる養育者)とのコミュニケーションが豊かで、相互的であること。

※家族と共に毎日の生活体験が当たり前のようにより繰り返されること。



日常生活の重要性

日常生活を大切にすることは学ぶ力にも繋がっていきます



出典:「幼児期から小学1年生の家庭教育調査・縦断調査」(ベネッセ教育総合研究所 2016年)

2. 子どもの発達状況を理解する(正しい知識を得る)

★世の中のめまぐるしい変化に押し流されるようにして、子ども達の発達を無視した促成栽培のような教育や子育てが、知らず知らずのうちに蔓延しているかもしれません。

- ・ 子どもの発達には筋道があり、どの子どもにとってもほぼ共通しています。
- ・ ですが、子どもの生来の**気質**、それまでの家庭の養育状況、子ども自身がどのような遊びに興味をもつか、誰と友達になったか等により、**経験**が少しずつ異なり、発達の**独自性**が生まれます。
- ・ 更に、子どもが特定の対象にかかわる場合には、ある程度の共通した流れと**順序**が成り立ちます。 おずおずと始める ⇒ 楽しむ ⇒ 工夫する



- ① その年齢、その時期の発達の特徴(筋道)を知っておきましょう。
- ② その子の独自性に注目しましょう。“**良さ**”と捉えるといいですね。
- ③ その子の対象へのかかわり方の進化を見守りましょう。

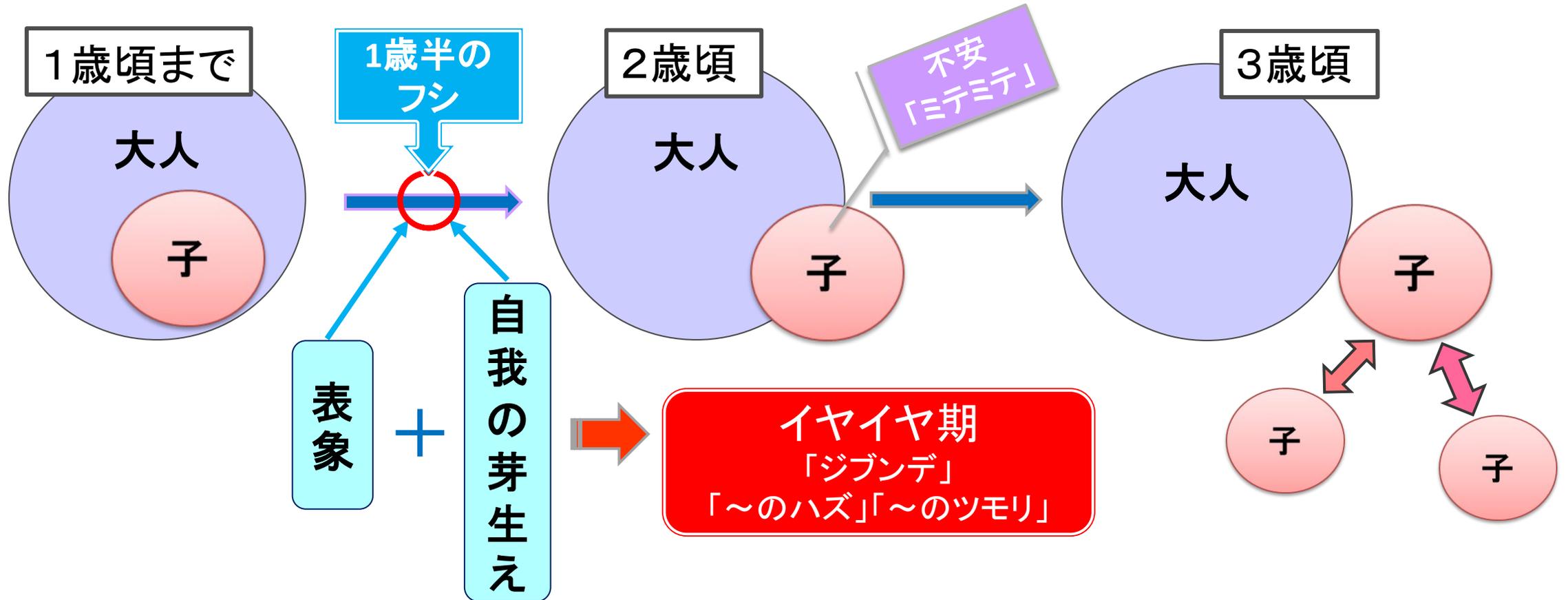


1歳から3歳までの子どもと大人との関係



愛着の形成

言葉の爆発期
(語彙爆発)



3. 子どもへのかかわり方 ヒケツの①:先回りしない



- 失敗する前に挑戦させなかったり、子どもが助けを求める前から手を出してしまうと、**自分で考えて行動する力が育ちません**。
- 失敗しないで育った子は、壁にぶつかるとすぐに挫けてしまいます。子どもには「**失敗しても大丈夫!**」と伝えましょう。そっと背中を押してあげましょう。
- 「大きなケガや命に関わるような危険なこと」や「人に迷惑をかけること」など、親がいけないと思うことについては、自信をもって叱りましょう。
- なかなか難しいことではありますが、子どもを信じてまかせられるようになると先回りしなくなり、イライラもかなり減少します。



3. ヒケツの②: 子どもの話をよく聴く

- 子どもの話を聴くと、子どものことをよく知ることができて、子どもに対して「関心を持っているよ」「大切に思っているよ」と伝えることができます。親子間の信頼関係も構築されていきます。
- 親に話を聴いてもらい、親から認めてもらえるだけで、子どもは自信がつきます。
- 子どもの話を聴き、子どもの思いに共感することで、子どもは「ボクの気持ちをわかってくれた」「ワタシのことを大切に思ってくれた」と感じるからです。
- 人間は、誰かに大切に思われること、必要とされることで、自分の存在価値を確認することができます。自分は価値のある人間だと思える人は、人生を幸せに過ごせます。
- 親子間の信頼度は、親が子どもの話をどれだけ聴いてきたかに比例しているそうです。

3. ヒケツの③: 親自身が幸せであること

- 自分の人生を自分らしくイキイキと生きる大人の近くで育つと、子どもにはいい影響があります。
- 親にポジティブな発言が多いと、子どももポジティブになります。
- 子どもは「大人って楽しそう」「あんな風になりたい」と思います。 **幸せな生き方のモデル**にします。

そのためには、 ◆ 「いい親(母)」プレッシャーから自分を解放しましょう

◆ 困ったときには「助けて」と言いましょう

……何かを頼む力「受援力」の大切さ

「頼ることは相手を信頼し、尊敬する証です(吉田穂波)」



おもらしを繰り返す5歳の男の子を叱りつけた保育士に、
「先生、怒らないで」「おしっこ出しちゃうオチンチンが悪いんだよ」と3歳の女の子。

そのことばに、男の子も保育士も、救われ、教えられ、
励まされました。

それから、男の子はおもらしをしなくなったそうです。



おわりに



「子育ては親育て」と言われます。
子育てをしているつもりが、
親として育てられているのかもしれませんが。
親であることによって、
いつのまにか人間としてひとまわり大きくなっていく
喜びを
ゆっくり味わっていきましょう。

まずは笑って、深呼吸 !!

